

# 東松島復興応援講演会

演題 「あの日が変わった 自分の生き方」

～東松島に生きる熱き男達の復興への道のり～

## 講演者紹介



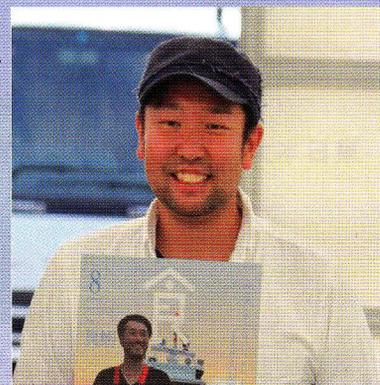
アイザワ水産  
海苔漁師・相澤 太

### プロフィール

人生で一番おいしい海苔“一生逸品”をビジョンに、漁師の自分にしかできない“次世代育成・未来継承”を、ミッションに掲げる「三代目J soul 海苔漁師」。18歳で海苔漁師の道へ入り、宮城県奉獻乾海苔品評会では、弱冠23歳で準優賞。2009年には、史上最年少・28歳という若さで優賞を果たし、2度の皇室献上の荣誉に授かる。東松島では名実ともにエースと謳われ、海苔の浜、地元・大曲を「皇室御献上の浜」ブランド化へと導く。甚大な震災被害から復活を成し遂げた、類稀なる天才海苔漁師は自然と人の未来を描く熱き言葉で、地元や都心のワークショップ、メディア等で活躍中。

### プロフィール

千葉県千葉市生まれ。敬愛大学経済学部経済学科を卒業し、都内でのインテリア業界勤務を経て、2011年11月東松島市に移住。移住後1年間は市内事業者との連携役として活動。その実績が認められ翌年より「東松島あんでなしよっぶまちんど」の営業企画担当にあたる「番頭」に就任。2014年8月に創刊した食べ物付きの季刊情報雑誌『東松島食べる通信』の編集長も兼務し、「食発見は町おこし」をコンセプトに食を通じた地域活性化に取り組んでいる。



東松島あんでなしよっぶまちんど  
番頭・太田 将司

日時 平成27年7月14日(火)

開場 9:00 開演 9:30 終演10:45(予定)

会場 大東文化大学東松山キャンパス60周年記念講堂

お問い合わせ先:大東文化大学 東松山キャンパス 地域連携センター

Tel:0493-31-1534

E-mail:chiiki@jm.daito.ac.jp

観覧無料

# あの日を忘れず、ともに未来へ 「東松島一心」



## 東松島市概要



日本三景・松島(松島四大観「壮観」の大高森より)



東日本大震災直後の東松島市



被災元地に建設されたメガソーラー施設

宮城県東松島市は、日本三景・松島の一角を占める人口約4万人の風光明媚なまちです。2005年に矢本町と鳴瀬町が合併して誕生し、本年4月に合併10周年を迎えました。仙台市から北東約30kmに位置し、まちの南側は太平洋に面しており、降雪が少なく東北地方の中では比較的温暖です。豊かな海が育んだ海苔や牡蠣は大変美味しく、特に高品質の海苔は、皇室へ献上されるほどです。

また、内閣府より「環境未来都市」の認定を受けており、環境や超高齢化といった社会共通の課題について、持続可能で先進的な事業に取り組んでいます。

2011年3月11日に発生した東日本大震災。東松島市では、震度6強を観測し、最大10m以上の津波がまちを襲いました。津波浸水区域は、市街地の65%に達し、市全体で73%もの家屋が全壊又は半壊の被害を受けました。今回の震災で、1,109名もの市民の尊い命が奪われましたが、その主な原因は、建物の倒壊ではなく、津波とそれに伴う低体温症によるものでした。今なお25名の方が行方不明となっており、捜索活動が継続されています。

未曾有の大災害を経て、東松島市は復旧・復興に向けて邁進しています。沿岸部で被災した市街地を内陸や高台へ移す防災集団移転や災害公営住宅の建設が進められ、本年度中に5つの防災集団移転団地が完成します。また、5月には、震災以降不通となっていたJR仙石線が再開し、地域の悲願であった仙台―石巻間の鉄道アクセスが復旧しました。

しかし、復興が進む一方で、道路や下水道といった膨大なインフラ整備や小学校の建築、被災者の心のケア・・・、課題はまだ山積みです。資材の高騰や慢性的なマンパワー不足等も深刻です。長い年月をかけて築いてきた生活が、震災により、一瞬で崩れ去ってしまいました。短期間で元の生活・環境を取り戻すことは、容易ではありません。震災から4年が経過し、震災の風化も懸念されています。復興は「道半ば」、東松島市は復興に向け、今日も歩み続けています。



## 大東文化大学と東松島市とのパートナーシップ



東松山キャンパスのある「東松山市」は、東日本大震災で大きな被害に見舞われた宮城県「東松島市」と市の名称が一文字違い。そのような縁から応援、交流事業が始まりました。これまでに、相撲部による「ちびっこ相撲」、管弦楽団による「復興応援コンサート」、全學應援團による「JR仙石線開通記念式典」での応援活動やローバースカウト部による継続的なボランティア活動など、多くの学生が東松島市を応援して参りました。本学では被災地支援という言葉は使っていません。支援とは「支えあうもの、援助すること」だと言われておりますが、そこは「支援」を「応援」という言葉に直して使っています。この「応援」とは、「一緒になって仲間を励ます」という意味がこめられているからです。この講演会を機に皆さんも“東松島応援活動”を始めてみませんか！ご質問ご相談は、お近くの地域連携センター（大東文化会館または東松山キャンパス）までお気軽にお声掛けください。